

Jesu bleibet meine Freude/Jesus, joy of man's desiringの逐語訳 聖路加国際病院礼拝堂聖歌隊 川津泰人 H17.9.28  
 作曲:Johan Schop(1590-1664)作曲J.S.Bach (1685-1750)編曲(主よ、人の望みの喜びよ) 2007/9/25改定  
 作詞:MartinJahn

MartinJahn作詞										
ドイツ語歌詞										
Jesu, イエス	bleibet フライヘッ	meine マイネ	Freude,フロイヘ	meines マイネス	Herzens ヘルツェン	Trost トロスト	und ウント	Soft,サフト		
イエス	とどまるbleiben	私の	喜び	私の	心	慰め(動)trö	そして	夜、樹液、潤い		
Jesus イエス	wehret ウェレツ	allem アレム	Leide,ライデ	er エル	ist イスト	meines マイネス	ebensレヘン	Kraft,クラフト		
イエス	妨げる	全ての	苦しみ	彼は	である	私の	命	力		
meiner マイネル	Augen アウゲン	Lust ルスト	und ウント	Sonne,ゾンネ	meiner マイネル	Seele セーレ	Schatz シャッツ	und ウント	Wonne,ウonne	
私の	目	喜び	そして	太陽	私の	魂	宝	そして	歓喜	
darum ダルム	laß ラス	ich イヒ	Jesum イェス	nicht ニヒト	aus アウス	dem テム	Herzenヘルツェン	und ウント	Gesichtゲズイト	
それゆえに	させる、放すlassen	私は	イエスを	でない	から	定冠詞	心	そして	視界、顔	
標準的訳	イエスは私の喜びである 私の心の慰め そして潤いで イエスは全ての苦勞を防いでくださる 彼(イエス)は我が命の力、 私の目の喜び、太陽、私の魂の財産であり 喜びである それゆえ 私の心と顔からは 私はイエスを放しておくことはできない									
I 英語歌詞										
Robert S.Bridges(1844-1930)が英国の賛美歌として上記歌詞を意識の上歌詞とした										
Jesu,	joy	of	man's	desiring,	Holy	wisdom,	Love	most	bright;	
イエスよ	喜び	の	人の	望んでいる	神聖な	智	愛	もっとも	輝かしい	
Drawn	by	thee,	our	souls	aspiring	soar	to	uncreated	light..	
導かれた、描か	によって	汝、主	私達の	魂、	切望する	(希望など)高まる、	に向かって	永遠に存在する	光	
Word	of	God,	our	flesh	that	fashion d	with	the	fire	
言葉	の	神	私達の	肉体	関係代名詞	作られ	で	定冠詞	火、炎	
of	life	impassioned,								
の	命	熱のこもった								
Striveing	still	to	Truth	unknown,	soaring	dying	round	thy	throne.	
奮闘する努力す	まだ相変わらず	を(strive)	真実	未知の	苦しみ	死ぬdie	の周りに	汝の、神の	玉座、王座	
標準的訳	イエスよ、人が、聖なる智、そしてもっとも輝かしい愛を望むことの喜びよ 主に導かれて我らの魂は永遠の光を求め高まって行きます。 神の御言葉よ、私達の肉体は熱き命の火によって作り上げられ、 相変わらず未知なる真実を求め奮闘し痛み苦しみ、主の玉座の下に死のうとしている。									
II 英語歌詞										
Through	the	way	where	Hope	is	guiding,				
を通して	定冠詞	道	関係副詞	希望	である	導く				
Hark,	what	peaceful	music	rings;	Where	the	flocking	thee	confiding,	
耳を傾けよ	何と	平和な	音楽	鳴り響く	関係副詞	定冠詞	群がる	汝に、主に	人を信じやすい	
drink	of	joy	from	deathless	springs.					
飲むこと、飲み	の	喜び	から	不滅の	泉					
Theirs	is	beauty's	fairest	pleasure;	theirs	is	wisdoms	holiest	treasure.	
彼らのもの	である	美の	最もきれいな	喜び	彼らのもの	である	智、知	もっとも神聖な	宝	
Thou	dost	ever	lead	thine	own,	in	the	love	of	
汝は、主は	(古)doする強調	常なる	先導、指導する	汝の、主の	自身	で	定冠詞	愛	の	
joys	unknown.									
喜び	未知の									
標準的訳	希望に導かれる道の途上何と平和な音楽が聞こえてくることか 主に群がり、主を信じている人々は枯れることのない泉の歓喜の水を飲む 彼らには美という最上の喜びがあり彼らには知という神聖な宝があります 主は常に進むべき道を歩むのです。その未知なる歓喜の愛の中で									

<参考情報>

Johann Sebastian Bach	1685年3月21日アイゼナハ生まれ—1750年7月28日ライプツィヒ志望享年65歳。ドイツの音楽一族に属し、16世紀以来19世紀中ごろまでに数十人の音楽家を輩出、歴史上他に類のない大きな音楽家系を形成した。家系は、ハンガリーからドイツチューリンゲンに移住したVeit(1577年ごろ)に始まるとされ、J.S.Bachはその6代目にあたる。世襲的な音楽職人の伝統とルター正統派の信仰が一族の基礎にある。  幼年時代の聖ミハエル教会付属学校で音楽とルター神学の基礎を学んだ。1703年ヴァイマルの宮廷にヴァイオリン奏者として雇われ演奏の経験をつんだ。同年アルンシュタットのNeukirche(現在バツハ教会)でのオルガン奏者に18歳の若さで就任、オルガン奏法と作曲法を本格的に研究開始。1708年23歳でヴァイマルの領主宮廷の礼拝堂オルガン奏者に迎えられ、現存するオルガン曲の大多数と20曲あまりのカンタータを作曲。1714年には宮廷楽団の楽師長に任命、毎月1曲の割合で教会カンタータを作曲。  1723年からはライプツィヒ市の音楽監督に就任、市の主要教会の聖トーマス、聖ニコライで交互に作品を発表、現存する200曲の教会カンタータのうち180曲がその折作曲された。権力を持つに従い、市当局や聖職会議との軋轢も起きてきたが、1750年7月28日午後8時卒中のために、生涯を閉じるまで、比類ないオルガン奏者としての名声は衰えることは無かった。
Kantate147 Herz und Mund und Tat und Leben(心と口と行いと生活でBWV147) 原詩はS.フランク1716年作	
用途:マリアのエリザベト訪問の祝日 初演:1723年7月2日ライプツィヒ 歌詞:ルカ1. 39-56(マリアのエリザベト訪問、マリアのほめ歌)より、MartinJahn作詞のコーラルJesus,meinerSeelenWonne(イエスよ、我が魂の喜びよ)の第6節である。この曲は、英国のピアニストMyra Hess(1890-1965)によりピアノ用にも編曲された有名なコーラルでJohan Schopが作曲したものを、バツハがカンタータ147番の第6曲と第10曲の合唱曲として編曲、カンタータ147番自体は、ヴァイマル時代のバツハが最後に書いたカンタータ147aを原曲とする。マリアがエリザベト(洗礼者ヨハネの母)から受胎を祝福され、感動して神を讃える部分。この情景を、人間の罪深い現実の比較し、次に、イエスへの愛情と賛美を溢れさせてゆき、このカンタータの最後に歌われるこの曲に収めさせている。	

参考情報	もともとは解散という意味—Ite,missa estここでは終わるので解散
ミサとは	キリストと弟子たちの最後の晩餐を象徴的に再現するキリスト教会の最も重要な典礼、その基本は、キリストの体と血になぞらえパンとぶどう酒を捧げ、神に感謝し、次いでパンを裂き、信者に分ち与えることからなる。楽曲としては、Offertorium(奉唱歌)、Sanctus、Agnus Dei、Communio(聖体拝領唱)が上記の項にそれぞれ対応する

油 oleum	<p>穀物、ぶどう酒と並んで神の祝福の徴(しるし)と考えられ、これを欠くことは不忠実に対する神罰、これが豊かに恵まれることは救いを意味する。聖なる油の注油は信者に聖霊の多種多様な恵みを伝える。</p> <p>聖書では、神の祝福、聖別の象徴であり、祭司、王、預言者の努めを授ける際に油が注がれた。</p>
聖別 consecratio/consecration	ある人や、物、場所や時を神に捧げること、又は捧げる者/物を、他の者/物と区別すること。最も重要な聖別はキリストの定めた言葉(聖別句)を唱えることによってパンとぶどう酒がキリストの体と血になるという出来事
旧約 Vetus testamentum	<p>イエスの死と復活に神と人間との関係の刷新と考えそれを新しい契約-新約。イエス以前の契約を旧約と呼ぶ、その中で特に重要なものはモーゼを仲介にシナイ山で締結された十戒を中心としたシナイ契約</p> <p>他に、ノア契約、アブラハム契約、ダビデ契約などがある</p>
贖う(あがなう) redemptio/redemptio/redemption	本来は経済活動に伴う法的義務、零落して自分の土地を売ったり、自分自身を身売りしなければならない時に、その親族がそれを買い戻すこと、一般的には、罪を不問に付すこと、救うという意味になった